

インドネシア

主要データ

国名〔英名〕	インドネシア共和国 [Republic of Indonesia]
面積 (km ²)	1,904,569
海岸線延長 (km)	54,716
人口 (百万人)	256.0
人口密度 (人/km ²)	134.4
GDP (十億 US\$)	859.00
一人当り GDP (US\$)	3,555.55
主要鉱産物：鉱石	ボーキサイト、銅、ニッケル
主要鉱産物：地金	銅、アルミニウム、錫
鉱業管轄官庁	エネルギー・鉱物資源省鉱物石炭総局 (Ministry of Energy and Mineral Resources, Directorate General of Mineral, Coal and Geothermal : MEMR-DGMC)
鉱業関連政府機関	投資調整庁 (The Investment Coordinating Board、インドネシア名 Badan Koordinasi Penanaman Modal : BKPM)
鉱業法	鉱物石炭鉱業法 (2009 年法律第 4 号)
ロイヤルティ	エネルギー・鉱物資源省で適用される税外収入の種類及びその料金に関する政令 (2012 年第 9 号)
外資法	投資法 (2007 年法律第 25 号)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境保護法 (2009 年法律第 32 号)、森林法 (1999 年法律第 41 号)
鉱業公社	PT Antam Tbk、PT Timah Tbk、PT Inalum Tbk など
鉱業活動中の民間企業	Freeport-McMoRan Copper & Gold Inc. (米)、Newmont Mining Co. (米)、Vale Ltd.、Eramet SA. (仏)、Newcrest Mining Ltd. (豪)、三菱マテリアル、住友金属鉱山、住友商事等
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	2017 年 1 月の未処理鉱物輸出完全禁止に向けて、鉱業法の改正作業を開始。
2015 年以降のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・ PT Newmont Nusa Tenggara は Batu Hijau 鉱山及び周辺コンセッションの権益を、地元企業 Medco International に譲渡すると決定 (2016 年 7 月) ・ Weda Bay プロジェクトから、三菱商事及び大平洋金属が撤退 (2016 年) ・ 第 2 次内閣改造により、新 MEMR 大臣が就任するが、二重国籍問題により解任 (2016 年 8 月)

1. 鉱業一般概況

①銅

2014年1月12日からの鉱石輸出禁止により、インドネシアからの銅鉱石輸出は一時途絶えたが、エネルギー・鉱物資源大臣規則2014年1号によって、同日以降も一定の条件を満たせば、鉱石輸出が認められている(2017年1月12日まで)。

Papua州にGrasberg鉱山を有するPT Freeport Indonesia (PTFI)は、依然としてインドネシア政府とCOW(Contract of Work: 鉱業事業契約)の改定にかかわる交渉を継続中である。前述のように、2017年1月までは銅精鉱の輸出は認められているが、精鉱輸出のライセンスは6か月毎に更新する必要があり、更新のためにMEMRより推薦状が必要となっている。PTFIの2015年生産量は銅34万1千t(精鉱中含量)で前年比18.4%増となった。

一方、Nusa Tenggara州でBatu Hijau鉱山を有するPT Newmont Nusa Tenggaraの2015年銅生産量は、前年比217%の大幅な増加となった。これは、前年度の輸出遅延を回復するため、高品位部の採掘と高い回収率を追求した結果となっている。

上記2社ともに、鉱業事業契約(COW)の改定についてはインドネシア政府と引き続き協議を行っているが、輸出承認のための製錬所建設の義務もあり、厳しい状況にある。PTFIは東Java州Gresikに銅製錬所建設を計画しており、これが当局からの精鉱輸出承認取得の一条件となっている。

②ニッケル

2015年は、LMEニッケル価格の低迷により、多くのニッケル生産者の売上が減少することとなった。一方、価格下落に対抗するため、これら生産者はニッケルを増産する傾向にあった。

国営鉱山公社PT Antamの2015年度のニッケル鉱石生産量は165万5千t、フェロニッケル生産量が1万7,211t(ニッケル量)となり、鉱石生産は前年度比34%増であった。2015年半ばには、Pomalaaフェロニッケルの拡張計画(P3FP)のうち、第4号電炉の商業生産が開始され、ニッケル生産量の維持・増加に寄与した。

PT Vale Indonesiaは、ニッケルマットの生産が8万1,117t(ニッケル量)となり、2014年生産量7万8,726tと比較して3%増となった。また、販売量も前年比4%の8万2,907tと増加した。

③錫

商業大臣令(2012年No.78及びその改正令2013年No.32)により、2013年8月30日から錫の輸出に際し国内取引所での取引が義務付けられた。現状では、インドネシア商品先物取引所(Indonesia Commodity and Derivatives Exchange: ICDX)傘下の錫取引所が国内唯一の取引所となる。さらに政府は、関連する商業大臣令を改正し、2015年1月から錫はんだなども含めた錫地金以外の錫関連製品全般の輸出にも、ICDXでの取引の義務付けを拡大することとした。

国営錫公社PT Timah Tbk (PT Timah)の2015年の錫生産量は30,087tで前年より11.8%増加した。PT Timahの主要鉱山及びプラントはBangka島に集中している。

④アルミニウム

昭和電工及びPT Antamが共同建設したKalimantan島Tayan地区におけるケミカル用アルミナ(CGA)製造プラントは、2015年2月商業生産を開始した。原料のボーキサイトは、同プラントに隣接するPT Antam操業の鉱山から供給されている。同プラントでは、年間850,000wtのボーキサイトを処理し、年間300,000tのCGAを生産する計画で、2015年には69,869tのアルミナを生産した。

一方、国営アルミニウム公社のPT Inalumは、Sumatera島にてアルミニウム製錬を行っている。製錬に必要な電力はToba湖からの水力発電にて賄われており、同島北部のKuala Tanjungにてアルミニウムの生産を行っている。2015年度の本社アルミニウム生産は257,149tであった。

2. 鉱業政策の主な動き

(1) 鉱業法改正

2009年1月に新しい鉱業法が施行されて以来、多くの関連規則（政令及び大臣令）が発布されてきており、鉱業のフレームワークは整ってきている。一方、業務が進むにつれ、これら鉱業関連法規とインドネシアの他の法律との矛盾が明らかになってきた。

例えば、2009年鉱業法では、鉱業事業許可（IUP）の発行権限は中央政府及び州政府に加えて、県及び市レベルまで権限が下ろされていた。一方、2014年地方自治法（2014年法律第23号）では、県及び市のIUP発行権限は外され、中央政府と州政府のみが持つこととなった。また、後述のように、鉱業許可更新は有効期限の2年前からとなっており、長期的な投資となる鉱業の状況にそぐわなくなっている。

現行鉱業法の持つ矛盾点及び問題点を解決するため、インドネシア政府は2015年から鉱業法の改正作業を進めてきている。改正作業は、エネルギー・鉱物資源省及び国民議会エネルギー・鉱業第7委員会が協調して行っており、2016年内の改正を目指している。インドネシア政府は、改正案について公表することは避けており、また、パブリックコメントはされておらず予定もないため、詳細は明らかになっていない。

(2) 製錬所建設の動き

新鉱業法の鉱石輸出規制に対応して、インドネシア国内において、多くの製錬所建設プロジェクトが進行中である。カンファレンス及びメディア等からの情報によると、ニッケル、ボーキサイト、銅等の進行中の製錬プロジェクトは以下の通りとなる：

表 2-1. インドネシア製錬プロジェクト一覧

会社名	製品	位置	生産能力	操業開始予定
PT Antam	FeNi	南 Sulawesi	19,500tNi/y	2017年
Virtue Dragon Nickel	FeNi	南 Sulawesi	300,000t/y	不明
Harita Group	FeNi	北 Maluku	200,000t/y	2016年10月
Central Omega	NPI	中央 Sulawesi	100,000t/y 300,000t/y	2017年 2019年
PT Indoferro	NPI	Banten	25,000t/y	2016年
PT Cahaya Modern Metal Industri	NPI	南東 Sulawesi	7千t/y	2016年
PT Fajar Bhakti	NPI	北 Maluku	不明	不明
Freeport Indonesia	銅カソード	東 Java	不明	不明
Finder Resources	銅	Maluku	25,000t/y	2016年
PT Indonesia Chemical Alumina	アルミナ	西 Kalimantan	300千t/y	稼働中
PT Inalum	アルミナ	西 Kalimantan	1,000,000t/y	2019年
Cita Mineral	アルミナ	西 Kalimantan	1,000,000t/y	2016年
PT Lumbang Mineral Sentosa	鉛・亜鉛	西 Java	不明	不明
Dairi Prima Mineral	鉛・亜鉛	北 Sumatera	225,000t/y Zn 105,000t/y Pb	中断
PT Timah	レアアース	西 Bangka	500t/y	2018年

（報道資料等より作成）

PTFI 及び PTNNT は、銅精鉱を輸出のため、商業省から 6 か月毎に精鉱輸出許可承認を取得している。輸出許可承認には MEMR 大臣の推薦状が必要である。PTFI が MEMR 大臣の推薦状を得るためには、6 か月毎の製錬所建設プロジェクトが進捗していることが条件となっている。このため、PTFI は東 Java 州 Gresik に銅製錬建設を計画しており、PTNNT もこのプロジェクトに一部協力している。このプロジェクトにかかわる EP (設計・調達) を千代田シンガポール社 (千代田化工建設株式会社のグループ会社) が受注している。

(3) 鉱業事業契約の更新問題

2009 年第 4 号鉱業法において、鉱業の実施については許可制となり、鉱業を行うものは事業許可 (IUP) を取得することとなった。これまでの旧鉱業法下での鉱業事業契約 (COW: Contracts of Work、あるいは KK: Kontrak Karya) は、当該契約期間の有効期間までは維持が約束されている。

一方インドネシア政府は、契約者に対し 2010 年 1 月 12 日までにその内容を鉱業法に沿ったものに改定するよう要求しているが、契約改定に至ったのは 2016 年初め時点で 9 社であり、いまだ多くの COW ホルダーが交渉継続中である。

しかしながら、2016 年 6 月の時点では、COW ホルダーとインドネシア政府との改定交渉は膠着状態に陥っており、解決の先行きは暗い。ロイヤルティの引き上げ及び製錬所建設の点について、解決点を見いだせなかったという。PTFI は、契約更新開始時期が契約終了日の 2 年前からという点及び延長期間に、異議を唱えている。同社が Papua 州にて操業している Grasberg 鉱山は、坑内掘りに移行しつつあり、投資と操業を継続するためには、契約の安定性を確保する必要がある。同社の契約期間は 2021 年までとなっている。そのため、契約更新は現行法規では 2019 年からとなり、検討期間が短い。また、契約延長は 10 年間であるため、投資資金回収が困難であることから、PTFI は 20 年の期間延長を主張している。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2013 年 (千 t)	2014 年 (千 t)	2015 年 (千 t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク
銅	494.0	366.0	580.1	58.5	3.0	10
錫	84.0	69.6	68.4	-1.7	21.7	2
ニッケル	811.5	145.5	106.1	-27.1	5.6	6
金 (t)	59.8	69.0	96.7	40.1	3.2	10

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2016)

(2) 主要金属地金生産量

表 3-2. 金属地金生産量

鉱種	2013 年 (千 t)	2014 年 (千 t)	2015 年 (千 t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク
錫	63.0	64.8	67.4	3.9	19.5	2
ニッケル	22.8	21.6	46.9	117.0	6.9	10

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2016)

(3) 主要金属消費量

表 3-3. 金属地金消費量

鉱種	2013年 (千t)	2014年 (千t)	2015年 (千t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク
銅	243.9	244.7	229.0	-6.4	1.0	18
アルミニウム	490.7	407.3	444.1	9.0	0.8	20
亜鉛	118.9	111.5	101.9	-8.6	0.7	20
ニッケル	0.8	0.8	0.8	0.0	0.0	33

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2016)

(4) 主要金属輸出力

表 3-4. 主要金属輸出力

鉱種	2013年 (千t)	2014年 (千t)	2015年 (千t)	対前年 増減比(%)	主な輸出相手国
銅					
鉱石	1,453.7	715.0	1,711.4	139.4	日本、インド、韓国
地金	70.9	109.8	96.9	-11.8	マレーシア、タイ、ベトナム
鉛					
鉱石	10.3	7.8	9.1	16.6	中国
地金	2.5	3.6	11.1	207.0	シンガポール、米国
錫					
地金	88.4	70.2	69.8	-0.6	シンガポール、オランダ、日本
ニッケル					
鉱石	64,802.9	4,160.1	-	-	中国、日本、豪州
フェロニッケル	68.2	83.7	181.7	117.0	韓国、オランダ
マット	96.6	99.6	103.8	4.2	日本
アルミニウム					
ボーキサイト	57,023.8	2,085.4	-	-	中国
地金	151.0	106.6	84.4	-20.8	日本、韓国、中国
鉄					
鉱石	22,308.2	3,162.4	3,129.7	-1.0	中国
マンガン					
鉱石	3.9	0.0	0.0	-	中国、インド
フェロシリコマンガン	16.2	37.1	20.7	-44.1	日本、台湾、ベトナム
クロム					
鉱石	14.8	0.0	0.0	0.0	中国
フェロクロム	0.0	1.2	0.0	-100.0	インド
チタン					
鉱石	6.5	0.5	22.2	4,347.6	中国
ジルコニウム					
鉱石	49.4	21.0	30.9	47.3	中国、台湾、オランダ
アンチモン					
鉱石	953.0	19.7	16.5	-16.0	中国
粉	0.0	0.0	99.8	-	タイ、シンガポール
コバルト					
化合物	0.0	0.0	10.0	-	バングラデシュ、インド
金 (t)					
地金	35.0	25.2	22.6	-10.4	シンガポール、香港、日本

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2015, World Metal Statistics May 2016, Global Trade Atlas, International Trade Centre)

(5) 主要金属輸入量

表 3-5. 主要金属輸入量

鉱種	2013年 (千 t)	2014年 (千 t)	2015年 (千 t)	対前年 増減比(%)	主な輸入相手国
銅					
鉱石	73,187.0	23.2	63.5	173.5	豪州、米国、台湾
地金	100.5	109.5	126.2	15.3	日本、チリ、豪州
鉛					
鉱石	0.1	0.0	0.0	-	韓国
地金	80.5	60.6	60.4	-0.3	韓国、マレーシア、豪州
亜鉛					
地金	119.7	112.5	103.1	-8.3	韓国、豪州、インド
鉄					
鉱石	1,932.0	3,869.0	5,424.5	40.2	豪州、ブラジル、カナダ
錫					
鉱石	2.4	0.7	0.0	-99.8	日本、インド
コバルト(t)					
鉱石	0.3	0.0	0.0	-	中国
化合物	134.4	210.1	161.3	-23.2	ベルギー、中国、フィンランド
マンガン					
鉱石	22.3	59.2	45.7	-22.8	豪州、マレーシア、コートジボワール
フェロマンガン	21.3	32.7	19.4	-40.5	インド、韓国、南ア
フェロシリコマンガン	22.0	16.9	16.7	-1.7	インド、ベトナム、ウクライナ
クロム					
鉱石	5.4	4.9	6.0	21.0	南ア、韓国
フェロクロム	2.1	3.6	1.2	-66.0	インド、ベトナム、台湾
チタン					
鉱石	4.7	5.0	6.3	26.9	豪州、中国、タイ
ジルコニウム					
鉱石	11.5	9.7	8.3	-15.1	マレーシア、豪州、台湾
アンチモン					
鉱石	52.0	66.7	38.0	-43.0	日本
ニッケル					
地金	0.6	0.7	0.4	-44.9	日本、カナダ、韓国
希土類(t)					
希土類金属、スカンジウム及びイットリウム	6.21	13.68	36.41	166.2	日本
セリウム化合物	0.06	0.05	0.07	39.8	マレーシア、日本
その他化合物	0.12	0.18	0.15	-15.4	中国、マレーシア、エストニア
バナジウム(t)					
化合物	10.01	41.94	3.05	-92.7	中国、ドイツ
金(t)					
地金	8.75	6.19	23.51	279.8	シンガポール、香港、米国
白金(t)					
地金	5.99	5.28	2.72	-48.6	中国、シンガポール
パラジウム(t)					
地金	2.457	79.737	11.271	-85.9	韓国、中国
アルミニウム					
ボーキサイト	0.9	0.4	1.3	230.5	オランダ、ブラジル、中国
地金	386.4	249.4	271.4	8.8	豪州、UAE、カタール

(出典: World Metal Statistics Yearbook2016, World Metal Statistics May 2016, Global Trade Atlas, International Trade Centre)

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業 (権益: %)	鉱種	生産量	備考
Grasberg	Freeport-McMoRan Copper & Gold Inc. (90.64)、インドネシア政府 (9.36)	銅(精鉱中含量) 金(精鉱中含量)	341千t 1,232千oz	2015年生産実績

Batu Hijau	Newmont Mining (31.5)、 PT Multi Daerah Bersaing (24.0)、 PT Pukuafu Indah (17.8)、 PT Indonesia Masbaga Investama (2.2) 住友商事 (18.2)、住友金属鉱山 (3.5)、 三菱 マテリアル (1.75)、古河機械金属 (1.05)	銅(精鉱中含量) 金(精鉱中含量)	224 千 t 676 千 oz	2015 年生産実績
Sorowako	Vale Inco Ltd. (58.73)、住友金属鉱山 (20.09)、ヴァーレ・インコジャパン (0.54)、 三井物産 (0.36)、双日及び住友商事各 (0.14)、一般株主 (20.00)	ニッケル(Ni マット 中含量)	81,177t	2015 年生産実績
Pomalaa	PT Antam (100)(インドネシア政府 65.0)	ニッケル鉱石	1,655 千 t	2015 年生産実績
Tanjung Buli		ボーキサイト	202 千 t	
Pulau Pakal		金(含量)	2,210kg	
Tayan				
Pongkor				
Cibaliung				
Kabaena	PT Timah	ニッケル	72.351t	2015 年生産実績
Gosowong 鉱山	Newcrest Mining Ltd. (75)、 PT Antam (25)	金(含量) 銀(含量)	331,555oz 410,970oz	2015 生産実績
Bangka	PT Timah (100)(インドネシア政府 65.0)	錫(精鉱中含量)	26.4 千 t	2015 年生産実績
Belitung				
Singkep				
Karimun/Kundur,				
Talang Santo	Kingsrose Mining Ltd(85)	金(精鉱中含量) 銀(精鉱中含量)	24,227oz 59,949oz	2015 年生産実績
Martabe	PT Agincourt Resources	金(精鉱中含量) 銀(精鉱中含量)	302,449oz 2,534,486oz	2015 年生産実績

(出典:各社アニュアルレポート)

表 4-2. 製錬・精錬所生産状況

製錬・精錬所名	権益所有企業(権益:%)	鉱種・形態	生産量(千 t)	備考
Gresik	三菱マテリアル(60.5)、三菱商事 (9.5)、 日鉱金属 (5.0)、PT Freeport Indonesia (25.0)	銅地金	214.8	2013 年生産実績
Wetar	Finder Resources(75.0)	銅カソード	1.2	2015 年生産実績
Sorowako	Vale Ltd. (58.73)、住友金属鉱山 (20.09)、 ヴァーレ・インコ・ジャパン (0.54)、三井 物産(0.36)、双日及び住友商事各 (0.14)、 一般株主(20.00)	ニッケルマット (ニッケル含量)	81.2	2015 年生産実績
Pomalaa 製錬所	PT Antam (100)(インドネシア政府 65.0)	フェロニッケル (ニッケル含量)	17.2	2015 年生産実績
Banten	Indoferro(100)	ニッケル銑鉄	250.0	年間生産能力
Kundur	PT Timah 100(インドネシア政府 65.0)	錫製品	27.4	2015 年生産実績
Cilegon				
Mentok				
Inalum	インドネシア政府 (100)	アルミニウム地金	257.1	2015 生産実績
Tayan	PT Antam(80)、昭和電工(20)		69.9	2015 生産実績

(出典:各社 HP、アニュアルレポート及びヒアリング)



図 4-1. 主要鉱山・製精錬所位置図

5. 探鉱状況

- ・ PT Antam は、インドネシア国内でニッケル、金及びボーキサイトの探査を継続中である。同社は、Newcrest Mining Ltd. と共同調査に関する契約を締結し、金鉱山開発に関する協力のみならず、西ジャワ、東ジャワ、南スマトラ、ヌサテンガラ、北スラウェシ、ハルマヘラ及びマルクでの探査において協力することとなった。ニッケルについては Pamalaa フェロニッケルプラントへの鉱石調達のため、試錐（総延長 11,446m）、地質調査（217ha）、グリッド調査（62.2km）等を実施している。金の探査は Pongkor や Cibaliung などの既存鉱山周辺以外にも、西 Jawa 州の Cibereum Papandayan、東 Jawa 州の Banyuwangi、Buru 島などで実施した。ボーキサイトは、西 Kalimantan 州の Tayan、Mempawah 及び Landak で探査を継続している。
- ・ Arc Exploration 社(豪)は、東 Jawa 州の Trenggalek プロジェクトを継続中である。同プロジェクトは、浅熱水性金鉱化作用及びポーフィリー型銅・金鉱化作用が確認されている面積 300km² のエリアで、Arc 社が 95%の権益を有している。2015 年には新たな探査パートナーとして Danusa Tambang Nusantara 社を迎え、Sentul、Buluroto 有望域での試錐調査を行う予定である。
- ・ Merdeka Copper Gold 社は、東ジャワ州 Banyuwangi において斑岩銅・金鉱床の探査を実施しており、地元報道によれば 2016 年には採掘を開始する予定とのこと。当初 6 百万 t/年の鉱石生産から開始し、最終ステージ（ステージ 3）では 18 百万 t/年まで拡大する計画。現在の鉱業法では鉱石輸出が不可能なため、製錬所建設を含めたオプションを検討している。

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 6-1. 日本への精鉱及び地金輸出量(グロス量)

鉱種	2013 年 (千 t)	2014 年 (千 t)	2015 年 (千 t)	対前年増減比 (%)
鉄 鉱石	1.5	-	-	-
銅 鉱石	425.3	252.0	580.4	130.3
地金	0.2	4.5	-	-

アルミニウム ボーキサイト 地金	189.9 151.2	- 26.6	- 10.2	- -61.5
錫 地金	12.3	10.2	13.4	32.0
ニッケル 鉱石 フェロニッケル マット	2,508.8 - 95.8	350.9 1.5 93.6	- - 91.3	- - -2.5
マンガン フェロシリコマンガ	10.4	13.6	8.8	-35.6
ジルコニウム(t) 鉱石	40.0	0.0	168	-
金(t) 地金	0.1	0.2	-	-

(出典：財務省貿易統計)

(2) 日本企業による投資状況等

① 稼働鉱山・製錬所

- ・ Batu Hijau 銅・金鉱山の権益所有・操業会社は、インドネシア法人の PT Newmont Nusa Tenggara (PTNNT) であるが、同社には、米系 Newmont Mining 社の 100% 子会社である Newmont Indonesia Ltd. 及び住友商事を筆頭とする日系企業連合法人 Nusa Tenggara Mining Corp. (住友商事 74.30%、住友金属鉱山 14.30%、三菱マテリアル 7.10%、古河機械金属 4.30%) が外資運営会社 Nusa Tenggara Partnership を形成 (Newmont Mining 社側 56.25%、日系企業側 43.75%) し、資本参加していた。2016 年 7 月、PT Newmont は、全株式をインドネシア地元資本 PT Amman Mineral Internasional に譲渡することを決定した。PT Amman Mineral Internasional は、インドネシア石油天然ガス会社 Medco Energi International の孫会社であり、同鉱山の権益はインドネシア資本が掌握することとなった。権益取得の完了は規制当局の承認取得及び株式譲渡契約上の発行条件を充足した後となり、2016 年 7~9 月ごろになると見込まれている。
- ・ Sorowako ニッケル鉱山の権益所有・操業会社は、インドネシア法人の PT Vale Indonesia (PT Vale, 旧 PT Inco) であるが、日本企業 3 社、住友金属鉱山、ヴァーレ・インコ・ジャパン、住友商事が資本参加している。PT Vale の資本構成は以下のとおりである。

Sorowako 鉱山 資本構成	
100%	PT Vale Indonesia
58.73%	Vale Ltd
20.78%	日本企業 5 社
20.09%	住友金属鉱山
0.55%	ヴァーレ・インコ・ジャパン
0.14%	住友商事
20.49%	一般投資家及び個人株主

(出典：Vale Indonesia アニュアルレポート)

- ・ Gresik 銅製錬所を所有・操業する PT Smelting に、三菱マテリアル、三菱商事、JX 日鉱日石金属の日本企業が資本参加している。同社の資本構成は、三菱マテリアル 60.5%、PT Freeport Indonesia 25.0%、三菱商事 9.5%、JX 日鉱日石金属 5.0% となる。

② 開発案件

- ・ 三菱商事は、北 Maluku 州 Halmahera 島の Weda Bay ニッケル開発プロジェクトを実施している PT Weda Bay Nickel の株式 90% を保有する Strand Minerals 社 (シンガポール) 株式 33.4%

を保有していた。また、大平洋金属は、三菱商事(株)が所有する株式のうち、3.4%を保有していた。同プロジェクトは、1998年に締結された第7世代COWに属しており、資源量(Ni含量)510万tとされているものであった。

2016年4月、三菱商事は当該プロジェクトに関する全株式をEramet社に譲渡し、同プロジェクトから撤退することとなった。また、大平洋金属も株主間協定書に従って同株式をEramet社に譲渡し、Weda Bayプロジェクトからは、本邦法人が撤退した。三菱商事及び大平洋金属は、2009年2月に当該プロジェクトに参画し、事業化調査を行っていたが、資源価格低迷のため採算が取れないと判断し、株主間協定書に基づき全保有株式をEramet社に売却した。

- ・ 昭和電工は、同社がPT Antamと共同で操業するケミカルグレード用アルミナ工場において、2015年2月9日に本格稼働を開始したことを明らかにした。同プロジェクトは、Kalimantan島の西部に位置するTayan地区に位置しており、昭和電工が2010年8月から建設をしているもの。プロジェクトへの出資比率はPT Antamが80%、昭和電工が20%となり、アルミナ生産量は30万t/年を計画しており、うち20万tを昭和電工が、残り10万tはPT Antamが引き取る。アルミナ生産の主原料であるボーキサイトは、当該工場に隣接するPT Antamが操業する鉱山から供給する。建設資金のうち約263億円を、国際協力銀行(JBIC)と民間金融機関(主幹事みずほコーポレート銀行及び住友信託銀行)から調達し、このうち民間金融機関からの調達資金の一部について、JOGMECが債務保証を行っている。

7. その他トピックス

- ・ PTFIはCOW契約更新交渉をインドネシア当局と継続しているが、その中で、国会議長の口利き疑惑が持ち上がった。Setia Novanto国会議長(当時)は、2015年4月27日~6月8日までの間、PTFI上層部と複数回会合を持ち、議長は契約延長に関するインドネシア政府へのロビーに見返りを要求したとのことであった。PTFIが会談の内容をMEMR大臣に報告し明るみになった結果、Setia議長は同ポストから辞任した。
- ・ 2016年7月、Joko Widodo大統領は第2次内閣改造を行い、エネルギー・鉱物資源大臣をSudirman Said氏からArcandra Tahar氏に交代させた。Arcandra氏はバンドン工科大学を卒業後、ヒューストンを本拠とする石油エンジニアリング会社の社長を務めると同時に、マセラLNGプロジェクトにかかわるWidodo大統領のアドバイザーを務めていた。しかし、同年8月、同氏が米国及びインドネシアの二重国籍を有することが明らかとなった。インドネシア国籍法では、自発的に外国籍を取得したものは、自動的にインドネシア国籍が失効する旨が規定されている。米国籍を有するArcandra氏は、もはやインドネシア国籍を有しておらず、同国大臣に就任する権利を有していないことが明らかとなった。事態を收拾するため、Widodo大統領は2016年8月16日にArcandra氏を大臣から解任し、後任決定までの間、Luhut Binsar Panjaitan海事調整相がその代理代行を務めることとなった。

(2016. 8. 31 ジャカルタ事務所 山本耕次)